

大雨に伴う農作物等の管理対策

1 水稲

【事前対策】

用排水路を点検し、ほ場の浸・冠水を防止する。

【事後対策】

- (1) 大雨時は、河川への影響を考慮し、水尻は完全に落とさず、一定水位を保った上での排水に努める。
- (2) 冠水した場合は、できるだけ早く排水を図り、葉先だけでも水面上に出せるよう努める。
- (3) 浸・冠水した場合は、稲体の弱体化による病害虫の発生が予想されるので、病害虫の早期発見・防除に努める。
- (4) 浸・冠水した場合は、葉色が上昇する場合があるので、生育の変化に留意し、穂肥の施用量を調節する。

2 大豆

【事前対策】

明きょや排水口等の連結を点検・整備し、排水路の確保に努める。

【事後対策】

- (1) 浸・冠水した場合は、できるだけ早く排水するように努める。
- (2) 湿害による黄化や生育不良などの症状が見られたら、窒素追肥を10a当たり成分で1～3kgを施用するとともに中耕・培土を行う。

3 園芸共通

【事前対策】

露地ほ場や施設周辺の排水路等の点検と明きょ・暗きょの排水路への接続を確認し、排水路の確保に努める。また、排水ポンプ等を使用する場合は事前に保守点検を実施し、遅滞なく排水できるよう準備する。

【事後対策】

- (1) 浸・冠水したほ場の停滞水は、根傷みの原因となるので、速やかな排水に努める。
- (2) マルチ栽培では一時的にマルチをめくるなどして土壌の速やかな乾燥を図る。
- (3) 倒伏した株は早急に起こし、茎、果実、花穂等の曲がり防止する。
- (4) 浸・冠水により茎葉が汚れた場合は、可能な限り速やかな散水により汚れを落とす。
- (5) 病害が発生しやすくなるので、発生状況を確認して適切に防除を実施する。